令和４年１月１９日

内閣官房長官　松野博一　　殿

日本・太平洋島嶼国友好議員連盟　会長　古屋　圭司
日本・トンガ友好議員連盟　会長　中川　正春

トンガにおける大規模な火山噴火に対する緊急支援要請

トンガ諸島周辺で大規模な火山噴火が 15 日発生した。

この火山による噴煙の広がりは直径が 300 キロ以上と過去最大規模となっており、日本をはじめ太平洋沿岸の広範囲にわたり津波が到着するなど、世界にも大きな影響が及んでいる。

噴火が発生したトンガ王国をはじめとする周辺地域で暮らす人々への深刻な被害が広範囲にわたることが予想されている。特に、今回の噴火は、トンガの首都ヌクアロファから 65 キロほど離れた場所で発生したもので、交通や通信インフラへの長期的な障害、また火山灰や火山性ガスなどによる被害など、住民生活への影響が長期化する懸念がある。

トンガは、伝統的に親日国であり、これまで長きにわたり友好関係を築いてきた。人的交流はもとより、特に、近年では、経済・技術協力が増大し、両国関係が一層緊密化している。また、周辺国である太平洋島嶼国地域も同様に、伝統的に日本との関係が深く、国際場裏において日本を支持し、日本の国際戦略の観点からも極めて重要な地域である。

政府は、トンガをはじめとする周辺地域在住の日本人の安否や現地の状況について情報収集を進め、現地の正確な状況を速やかに把握するとともに、多くの火山を有し、津波の経験を持つ我が国の知見を活かし、トンガをはじめとする周辺地域に対して、関係国と連携し、緊急人道支援、災害復旧支援、経済支援をはじめとして最大限のあらゆる支援を行うことを強く要請する。